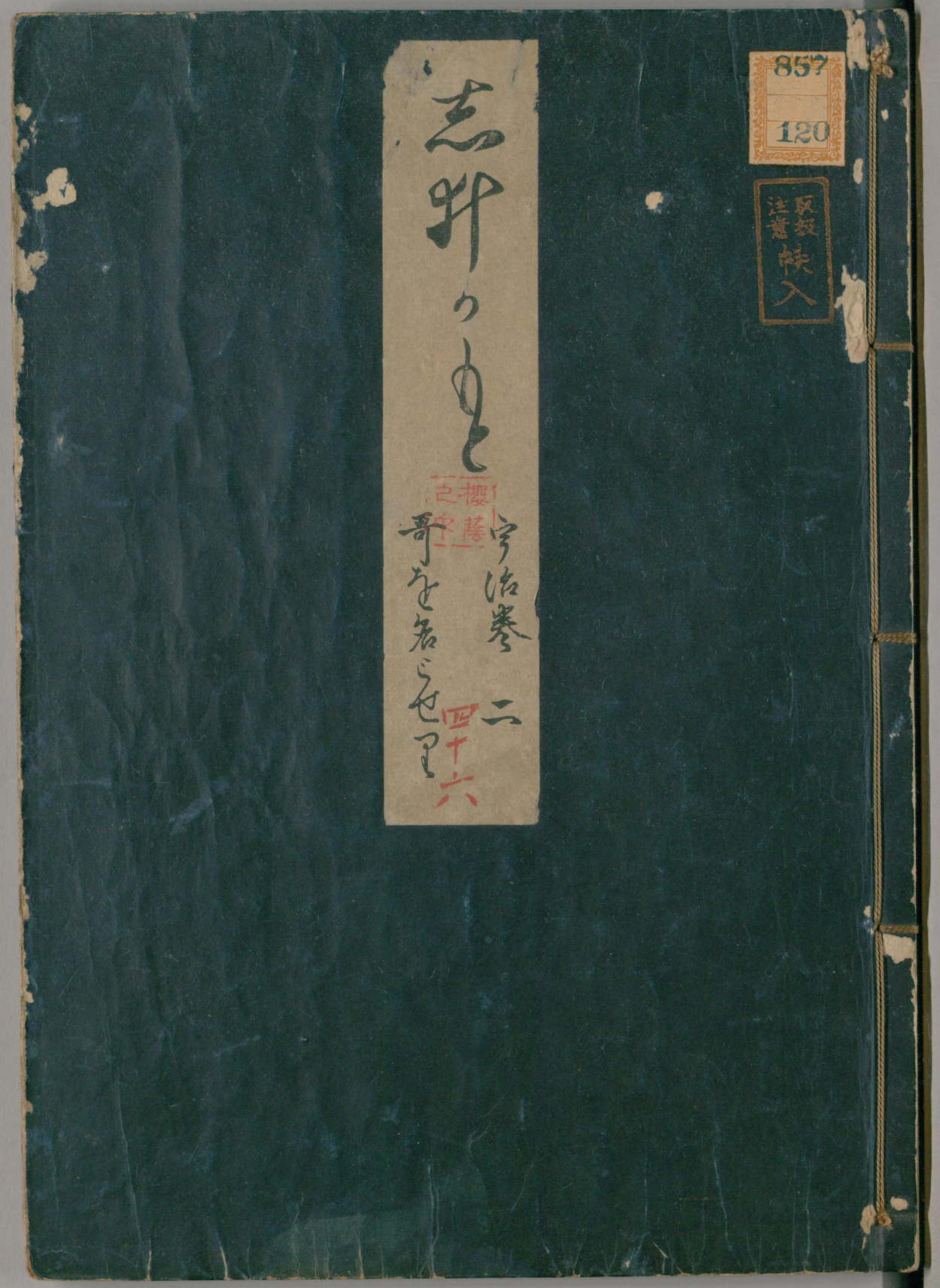


国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

857-120

二月のつごもりの日の雨にまがへて
花のさかりをいとどしくもてはやさるるに
ちりまがふ木の下風はあつさをわすれぬべし
なごりなくなほ残れる雪のいとまだらに
消えかへりたる所々
ながめやらるるかぎりは
青き海原
波のたちかへるなごりまで
のどかにかすみわたりて
春の日の
あたらしきに
鶯の
はつかに
鳴きそめたるを
聞きつけたまへる
御心ばへ
いとあはれ
なるに
ものの
音
ども
の
ほ
の
か
に
聞
こ
ゆ
る
に
な
ど
に
と
な
く
あ
ま
た
た
び
ま
で
に
な
り
ぬ
る
を
い
と
ど
し
く
な
ん
ど
の
ま
ど
ひ
に
て
か
ま
へ
て
と
の
み
思
ひ
て

857-120

二月の廿日の程に、若菜つのぶ[白]
[ヲ]
[ヲ]さされ[ヲ]ぬるうれど、おぼ[ヲ]しもとめて、年ごろ
ありつるけ[ヲ]ぶ[ヲ]のつ[ヲ]ぶ[ヲ]
さま[ヲ]ぬくいもなれさせまゐらせるべ[ヲ]
[ヲ]ぬ[ヲ]く

857-120

二月の廿日の程に、若菜つみにとて、
たづさへ給へるうへ、
なほ、しばしもとゞめ、
南殿ノ下ノ人ヲ宿シ中宿リトス
たまはれば、
ゆるしなきものの、
うちの中やどりのゆゑ、
キイ 秋彦ハ心
さまくるるべし、
名を秋ノ前ニ
初氣のなれも
おきのゝ
里の名
うゝ武 赤俊
あまるつうまつり給ふ
いとゞ、せこ、
ものゝ人すくなくつうまつれり、
冥白ニ付リメルシカナ
右
うつくしうして、
今平等院ヘ
いとひろくおもしろくてあるに、
儲をせのみ、
おとゞもの人ども、
おとゞ、
六条院
六条大臣ヨリ
佐堂

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

古榜猛ヨキナリ

宰相・権中将・頭の中将・義人の兵衛の督・侍従の宰相・右大将・源宰相・侍従・弾正の宮・式部卿の宮・兵部卿の宮・左大将・内大臣・右大将・中将・中納言・宰相・参議・左大弁・右大弁・左中将・右中将・左兵衛の督・右兵衛の督・左近の中将・右近の中将・左衛門の督・右衛門の督・左馬の頭・右馬の頭・左大将・右大将

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

れぶれるん昔の六条院のれ笛のまゝ吹たゞ
ちりけるあいぎやうの花の一枝のこと
ちりしをれたるこの花のいろ
ゆかしきこゝろ
すこのぼりてゆくちりけのそひうたちゞのれ
とぐのれでうの笛のまゝそこなれるゞ独ぢち
おくれ哀なひうちうちりけりやうれあそび
ちゞもきで省まもあゝでゆ
すぐるあのくうぐへらうう
つのでまも昨むうちのれ有様あゝくうるゞ
とゝろひさうあていやまずとゞるまばしつ
けりろ宰相のうゝのあつでうふれうゆりうても
まはしげちうとさうもひよ
いそうろうつうあるゝ白心井白の如ハ
第
ゆうの逆うしうあるゝ

やうの心あさうん人とばいうぞうばしうぞれで
つれぐとちゞあ給白んさうろいはの雲の乗もはあゝぶ
うぞうろやうまのうう接のやぞりいるひのまゞれ
月めうろうしてあうぶうんこと
白
文いはばうてうぐとうすこつうれうそうう教
橘あれば今ひけそむうちゞ水うげるゞそうう
河そひ柳のあさうちゞ
ちゞおううぞうひのうあ人むいとめづう
ちくう持ぐうとばうう宰相くうう
すぐさず遠人給ばやとばをゞおまこの
人めばうぞひさう漕出給んあ毎つうの給もうう

やうの心あさうん人とぶいうぞらるぐ　ぶしぐれて
つれづれとちぐめ給ぐ　白
秋白雲人に方ぶ　ぶぶぶ

酔醒楽　右楽　三越調　元舞
河水楽　三越調　新楽

河水の遥遥たる
又都堂の序うれしも
酔醒楽　ものどもらうらうとして
舞人四人　人々心しづかに舟より
乗　養酔醒楽　舞人四人
初祝　遥遥たる

酔醒楽ハ右ノ手ニ其例アルニヤ

又河水楽ト云歟

笛ノ音ノ吹行ト雅亮ノ吹行ト

山風の寒さ
遠をの河の波いづ
の河風中ねいまうで給おそびよろこばれうらん
ざうさうしてさいやつ給行えんすいらくあそび
うらうらうの心
おろうう敬あう安ろれば

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

まれくにふるさとうりょうすさびごとをしるど
すくへいの文(まぶみ)つくしさいのころのすきひまもな
まうでの中やどり住(ゆき)まの浦のちどりごとに
そこばくけてさすがにうくるあはれなるに
とくちりおかづくしばげまてるすえめざめ
しうてうげのつくへとぞうるをせばうぶ三文(白文)ぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

あらん子のやうなるものやあらんとおもひてやるもそのこいとあるを
なやのうちにぶさずやあるあらんかいなぐりありて
いとひるさうるまひすべきもあれはそこ
ろぐるうべうるぐ大方のことつけての給へる
いとさなばけぐらんとぶぐるくやうれば心
のうちにすべてはうとおもひまへとて
心トニルト
うけやはらんこのうちのくまていはるる
いくよもあらうとおもうあはげるもう
るさうるれどうるめづらうそそむきぐる
ぐうはうれうしうひぞうぐうきうもされ
ぐやうてまひはりけりうどまてあるぐ一ぐ

笈絃ノ事ナルハ思ヒ拾タルケニヤトニ位人ノヲキノ付ハ

まてまてこうよりうけりけりはやはらんこ
ぐうはうはうひてうけりはやはらんこ
いとをうるうんはうるうはうはうは

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用

神ノ記三年 除

法皇御相撲人

七月十六七日ノ月相撲ノ召使

廿六日内裏

廿八日

石合大ノ月

廿七日廿九日

抜出小ノ月廿

八日也法皇ノ御所人ノ召集テ所ラシスル初八石合後ニスグリテ所ランアルヲヌキ出ト云

相撲

源速与出雲国野ノ人宮仕金輪力ヲ以テ相撲各拳足相撲別源速之脇骨ヲ源折

其腰骨殺之故本集源速地獄宿称以其邑有脇折田録 神亀三年 令諸

国始進相撲人 天平六年 同相撲召仰之 天平六年 初ノ相撲

石合 小月九七日 九日抜出 小月九八日 諸国ノ使所人ノ召集テ所ラシスル初ノ

石合後ニスグリテ所ランアルヲヌキ出ト云

神龍三年
後宴相撲人
七月十六七日
月ニ奏シ石作

相撲

ひすべるこさのいはひはずまひるぞ。なほやけごと
どもまぎれ侍りしころ。ものしてゆくんるぞ。
まてゝれとそぞ。秋のみやべめし出て。ありあうか

べきれいしへなどこそしのふ。三度いとゆかしう
おぼいしるまれをとく心のうちまさりけつゝろ
ちづらる。代人まれとるりうさばりれそろ
もてゆるひ給ふものさうもいそがれぬよのてらか
れてゝる。あるまづこそすぐよ。そぞ。
やうまてまれをとうしりのそれ
もみぢをつけて。衰をもるさけをもうよすり。
まくらぞまれし給あうるれぶすくをそよて。
ぶのあるまるもるり給そんいさすぐよちりうう
べき。つるやうじうちうちしるまぐ
みるさ行ようるめ心ばそうありるげよちぶい

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

しうせいばかりもあるべきあるうち年月ゆきうつりて
みかどくいとおしげ
なりぬるはてはいかばかりかはかなしかりぬべきことのうんやうにかなしうもあるかな
もののおぼえもとくももののるるむやうまでいかばかりも
なるべきぞいかにてかかるこれをまりてはかなる
ときもちぎりをかばかりのみべきとおもふくらるばそこ
ろもとなくこころさされいまはのこと
ものしたまへるかのゆかりのこと
ものしたまへるかのゆかりのこと
明石
いかにつくさばかるれどげにようにあるべき
あとをいかにとそのこころもとなくこころさしもとも
秘境界縁のたまれ
ものおぼえるるんかけおおそいろ結ろんとてその日ん
れいるぞるるる

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

姫君

いとどうとくもてなされまゐらせて。なほつれ
なくてつのくにもれ。なほつれなくてれ
ばしなげくるこころもちすべしまたもお
られてまうでて。世よあるべきまれとなほしもる
べきあれこころもちどもまうでうけとれじとおもふさ
しづこころまゐへど。恨あるなれば。なほのうひ
ちなほ。なほざり辛びちぐりをさなけりまくるのちの乃
ばこともろびよつうまつるさへまゐりまゐ
らんれこころもちぞなる。今一度こなんとなほし
のゝへど。今さらよろづうとうとうと

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

なれば　なほ　しとまりてはかな
くちるん　れいみ　こと
てあ　限　あれば　涙の　ものひ　よりも
やく　なば　やりて　ぐ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大洞のさとりをすまし給へる山ぶしいまだ法師
にもなりきらぬ程なれどいとけなくうつくしう
なまめかしきかたちにて白き数珠をおしもみ
給へる声いとたとくらうたげなり
ゆゑ深き御ありさまにて
ものまゐりなどもすまでこもりゐ給へるを
ものの怪もいたくおそれをのの
きてとりつきたてまつりたるなりけり
なにものにか
あらんとあやしがりて
ものの怪ども
をのの
川ゝ
ものの
けをこそ
げにさきの
うちとけやすくとりつくなるべし
ハ
ものの
ものの
ものの

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

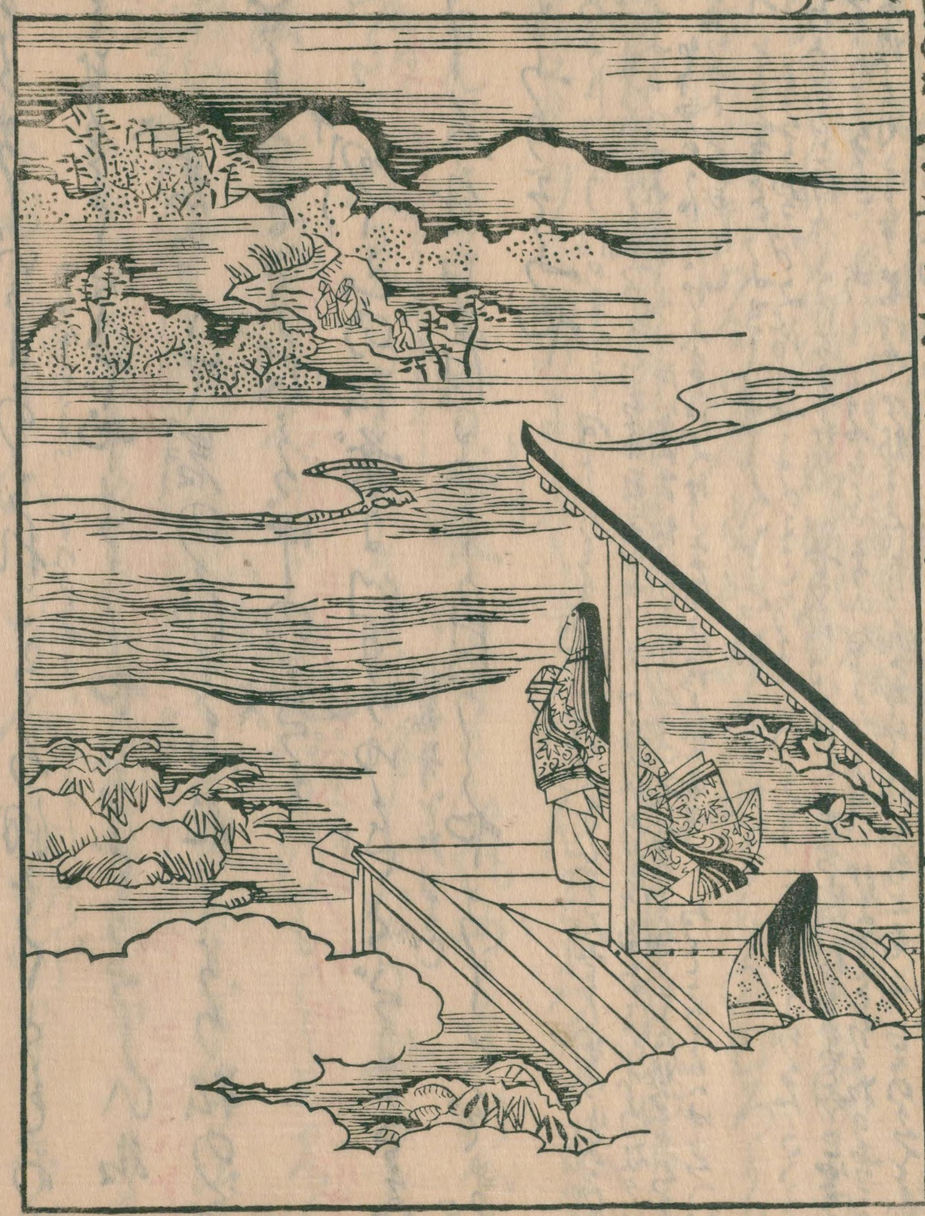
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用



中納言の君はあるべくもあらぬさまにふるまひなしたまへるを
らひさうしざうんさぶらひなどもあるべきかぎりのことどもをいとかしこくもてなしきこえたまふ
ところどころにもさぶらひなどもあるべきかぎりのことどもをいとかしこくもてなしきこえたまふ
なれめるあけくれのひとりもてなしたまふ
ろうたくへのおさういあるべきかぎりのことどもをいとかしこくもてなしきこえたまふ
ぞあるべきあれはたとけ地のものるるうちのでくちう
ろうさうしひとりごすることつのてるふのの物ところびと
なしこれをうらやましがりたまへどいづくにかはいとめでたく
ようなるべきかぎりのことどもをいとかしこくもてなしきこえたまふ
やうなへのちひさうれいづくにかはいとめでたくもてなしきこえたまふ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　ガラス使用

日嘗めれば

この宮は草ゐ

おのこ

ありてもえ

きまさん

くさにせん

ざれくれんぞれど・おいべ

大

出給

行の水

らるる

まで

芹

文選曰野人有快炙背而美芹子者欲獻之至尊雖有區區之意亦已疏矣 嵇叔夜与山巨源絶交書

詩曰善曰列子宋國有田文常温賡至春自暴於日當亦時不知有廣夏溱室緜狐貉顧謂其妻曰負日之暄人莫知者以獻吾君將有賞也其室告之曰昔人有美芹菽耳菓莖与芹子對鄉豪稱之鄉豪取嘗之 陸 彼南山言采其蕨 毛詩草蟲

いとみのれば

精進の

精進

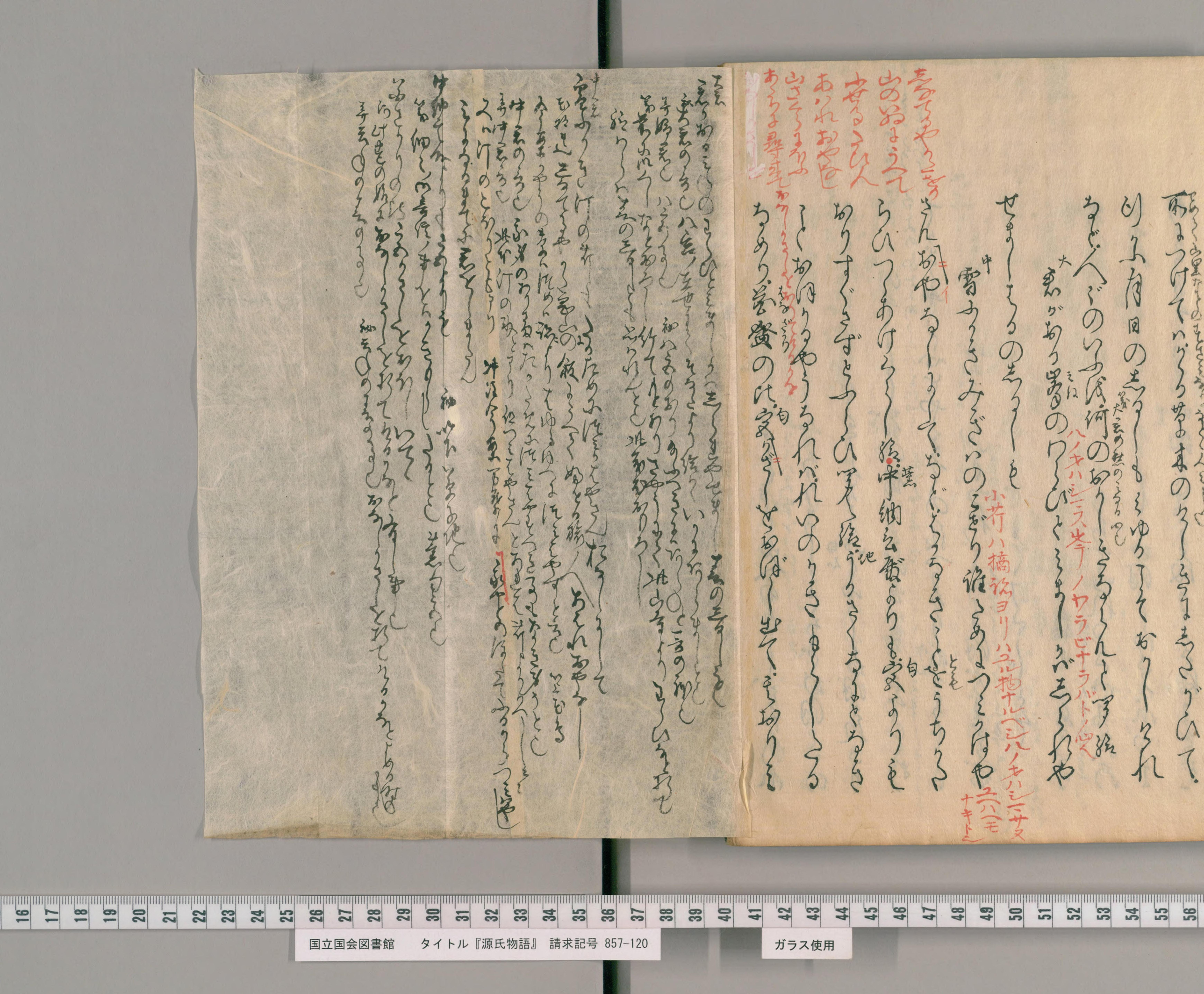
日ごろ経ぬれば、ちりまさりぬべうなるに、
うの花は草もまがへぬべうにほひまさりぬべうやつれたるみを
おのこ、ちりぬるうそ　ちりぬるもあるべし　おほかたもくちぬ
ありつくもあり　きまさんこの
きまさんこの　ひきつれまいりぬべうあやしう
くさにせん　ざれくちんぞれど、おいびとまぎらはし

日常ぬれば、ちとさとろぐ。ふうの
うの色は革るまれるへぐ。ふるまくさとり
おのこちるるそ。とり給もあるお中びうへ
ありてもえり。ひさつれまりうる。おやもうりるる
きまさんこの。ざうれとめんぞれど。おいぐへまぐうり給川

詳歌

ちりふる日のもとるもゆるてなりそれ
ちぐへぐのいる河のありしるもんと
雪がある雪のわびとくうべもとれや
せまるるのもとるを
雪みるさみぐいのこぐり給ぬるもとる
ちるるやうこうさんあやるるてちぐるるるるを
山のようて。らひつあけるる給中納言賀のうも
ありすぐるとひ男給ぬるるる
あれおやこ。しるりるやうるれいのるる
山さるるりの。ちあり。色賀のぬ安ぐ。とあば出て。
あるよ尋ぬるるるるるる

ハイキハミニラ光ノヤラビナラバトノ心ヘ
小芹ハ摘ヨリハ山抽ナルベ六ノキハシニサヌ
ニハ(モナキトモ)



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

宿の梅とぞ見る代くさ〳〵さ
をゆれば白んまよろ〳〵しとなびかつるれ心よ
あまりのていさで中納言殿ぞ殿よりさぞ殿よをそん

恨ふるこゝろ人へ
いかゝ〳〵
ろうにんこゝろ
いとうらんこゝろとゝ
ろうにんこゝろ
ろうにんこゝろ
ろうにんこゝろ
べし心よりあらとぞ
の給ふ大殿の六の君代
めしげよりなりぞ
つづくらくるぞ
られむ心ゆ
そ三条の女やうて

ひかひ何られとまれさたぐ
のつりを久へきうまづれ
人のれろろいまるいくくちろ
それが拍とうちちのくちるぐ
ぎん限いおぎれぐく情ちるる
ひつ者のれろろつをれめ
すへとおばくそのさつれ
あよけづすぐしうんつ
まうでのり終すぐそれぬぐ
くよさろろ日りげまいゆく
酒のひさまま毒おんへめつ

れぐそのぐうちちぐうちとらぐ
れいるる代ありじよるるつ
そのるるよみぐひるるあ
るる代るるるるりれいあ
おにおりとやひてのるくへ
をいるる吸あぐべりめれいあ
れすて出てくくくくつ
るるるるるるるるるれそのの
るるまくうれりて結へべ

本性とおぼしくまれすると
ものをとりてこれをさうじる
むりしいておぼしうさうじ
うおぼしをとりてとまりたん
とちりそりぬんひさう立出て
てひれとものへぐのさうめ
ちごひすぐあへる氏
はなちりそりさうのひと
色のひとへよりこうの
ちりとそりやうはいらるるしぬる
のまてやしうる中さき海りて
ちるげるとるるてずひ
ひさくきまあへり
くそびやうる指衆あしげるる人の
ちうさうすうしあ狂ちんとうて来までうり
のようひるくうやくとうちうひうげるう

やうるはどうさうるけうる
まぞおうすべうさはのこなり
うちうげうるまおおうざ海
ものとうしもやうべられて
ものもあれとうをもをうりおさ
海ちてうしあうんとおばゆううちうさうん
ざの狂ますうあてるる海めうしうる指あり
あるるよ屋まそへてうりいうそぐ
ちものぞうはうぐどうりうんぐ何ばるくいん
ありいうどうもあるべきつぐ
げるおざりいうはぐげうひ

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用